

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	港区
学 校 名	大阪市立築港小学校
学校長名	河田 靖美

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 25名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本年度の結果、国語科については大阪市平均と比べると2%、全国平均と比べると2.2%下回っていたが、昨年度の結果と比べると、それぞれ6ポイント、7.4ポイント改善している。学習指導要領の内容別で観ると「言葉の特徴や使い方に関する事項」は1.6%、「書くこと」は9.1%大阪市平均を上回っていた。一方、「情報の使い方に関する事項」は2%、「話すこと・聞くこと」は5.7%、「読むこと」は8.8%大阪市平均を下回っていた。

算数科については大阪市平均と比べると2%、全国平均と比べると2.5%下回っていたが、昨年度と比べると、それぞれ2ポイント、2.7ポイント改善している。学習指導要領の領域別で観ると「データの活用」が7.2%大阪市平均を上回っていた。一方、「図形」で8.2%、「変化と関係」で5.2%大阪市平均を下回っていた。「数と計算」は大阪市平均とほぼ同じであった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、大阪市平均・全国平均より上回ることができた。図表やグラフなどの資料を用いて自分の考えを書き表す学習や漢字学習を積み重ねてきた成果であると言える。しかしながら、「読むこと」は大阪市平均・全国平均を下回り、本校の課題だと言える。今後、目的に応じて複数の資料を読み比べて必要な情報を見つけたり、目的を意識して文章を要約したりする学習を継続し、読む力を伸ばしていく必要がある。

〔算数〕 「データの活用」の領域については、大阪市平均・全国平均より上回った。グラフから読み取ったことを記述する学習をした成果だと言える。しかしながら、「図形」については昨年度よりも差は縮小したものの大阪市平均・全国平均を下回る結果となった。図形の学習では、図形の意味や性質など基礎的な内容を確実に理解できるようにするとともに、面積の大小や計算方法について図・式・言葉を使って記述できる力をつけていく必要がある。そのためにも低学年の段階から、自分で考えた方法を単語で説明するのではなく、例文を参考に全員が説明できるようにする授業づくりを進めしていく。

質問紙調査より

本校の児童は「人が困っているときに進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について96%以上の児童が肯定的な回答を選び全国平均を上回っている。また、「朝食を食べている、毎日同じ時刻に起きる、寝る」の項目でも肯定的な回答が全国平均を上回っている。これらのことから、規則正しい生活を行い、仲良く協力する意識が昨年度に引き続いて高まっているといえる。しかしながら、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目では肯定的な回答が全国平均と同程度に留まっており、協力する行動をとっているがそれが自己肯定感や自己有用感を高めるまでには至っていないことが分かる。また、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の項目について96%の児童が肯定的な回答をしている一方で、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目では、肯定的な回答が75%であり全国平均を下回っていることから、学習面でのサポートには満足しているが、自己肯定感や自己有用感を高める取り組みは不足していることが分かる。

今後の取組(アクションプラン)

国語科においては、読む力を伸ばすために、児童が主体的に取り組める言語活動を設定する。例えば「面白い物語のあらすじを書いて下級生に紹介しよう」「地球温暖化を防ぐために資料を集めて意見文を書こう」など、児童が教科書を含めた複数の資料を読みたくなるような言語活動を継続的に行う必要がある。

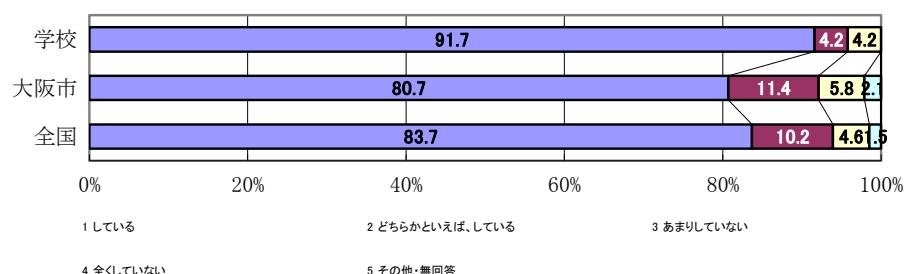
算数科では、まず始業前の反復学習の取り組みを継続して、基礎学力の定着を図る。さらに児童が問題の正答を言えるだけではなく、その解き方や考え方を説明できるようにする授業づくりを進めていく。また、基礎学力の向上という点では、質問紙調査から「学校の授業時間以外にどれぐらいの時間、勉強をしますか」の項目で、平日・休日ともに1時間以上勉強している児童が、大阪市平均から8ポイント、全国平均から16ポイント下回っていると分かった。このことから、家庭学習習慣の定着に向けた取り組みも行う必要がある。このように、学力面での取り組みを進めながらも、児童の自己肯定感や自己有用感を高めるために、児童の他者を助け、役立とうとしている行動を丁寧に見つけ、よいところを褒めて育てる取り組みを行っていく。

児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

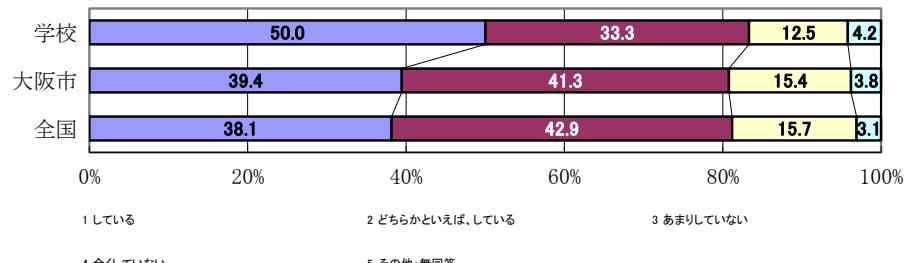
質問番号
質問事項
1

朝食を毎日食べている



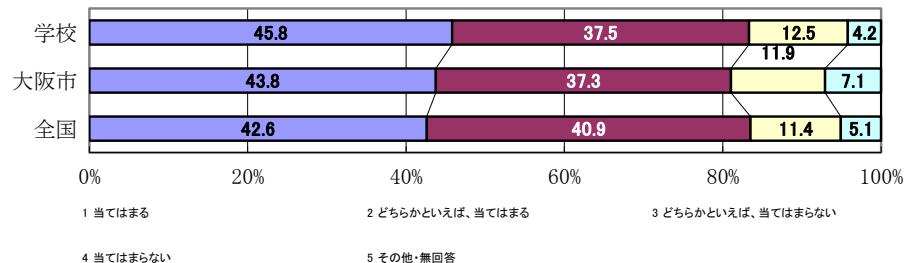
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ている



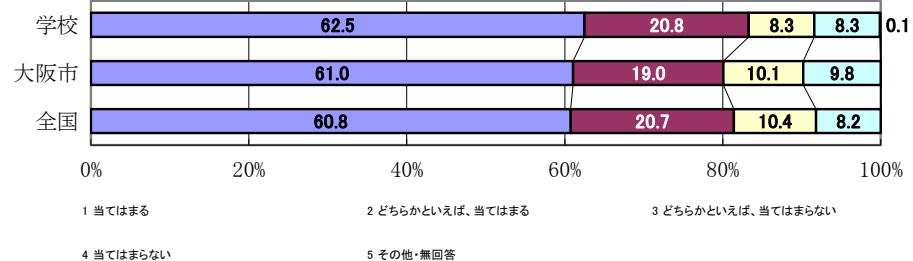
4

自分には、よいところがあると思う



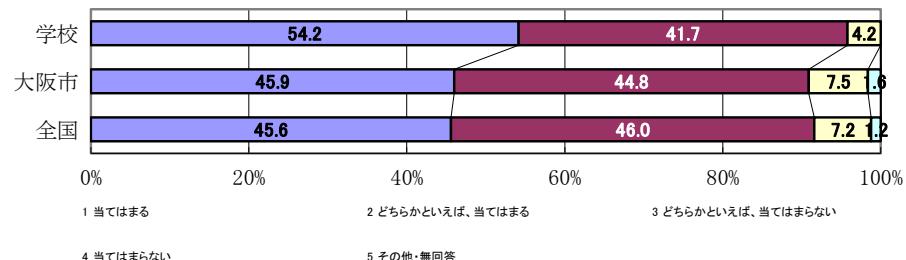
7

将来の夢や目標を持っている



8

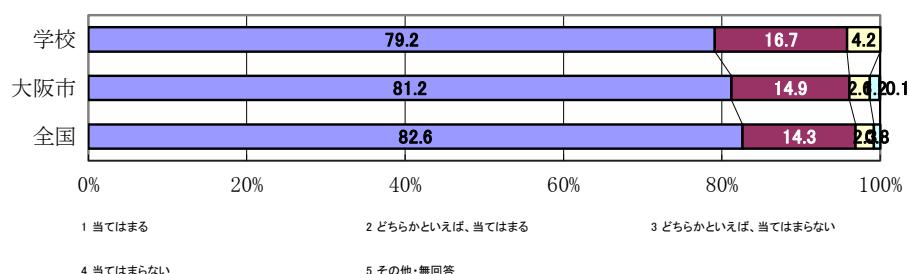
人が困っているときは、進んで助けている



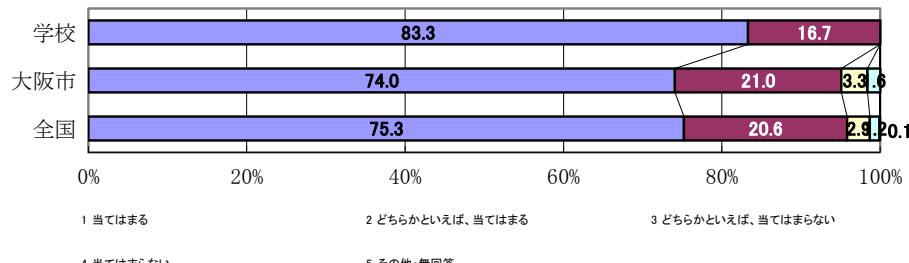
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

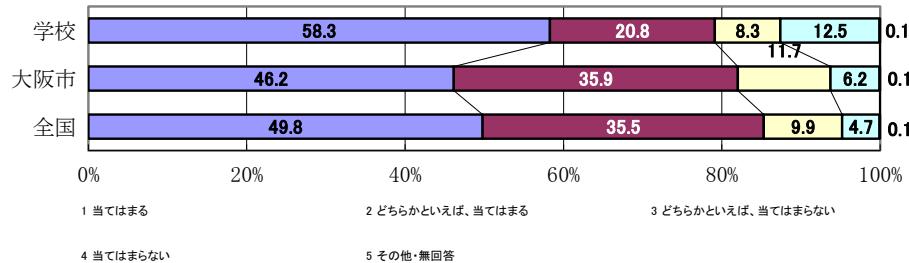
質問番号
質問事項
9
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う



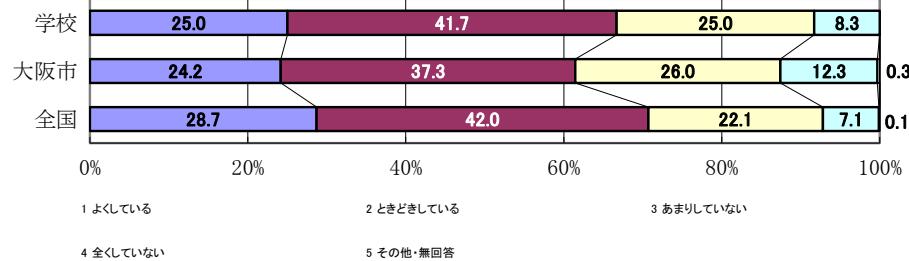
11
人の役に立つ人間になりたいと思う



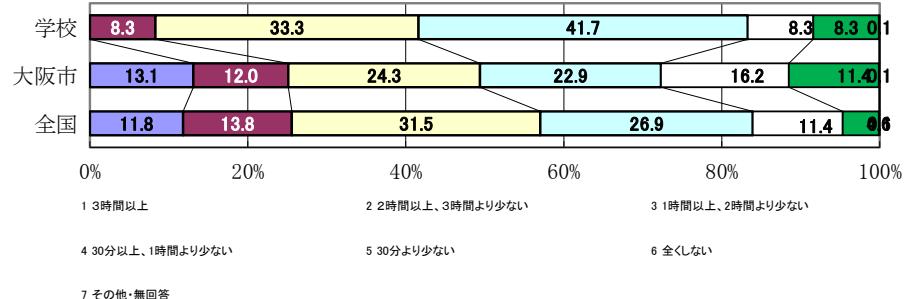
12
学校に行くのは楽しいと思う



16
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含みます)



17
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます)

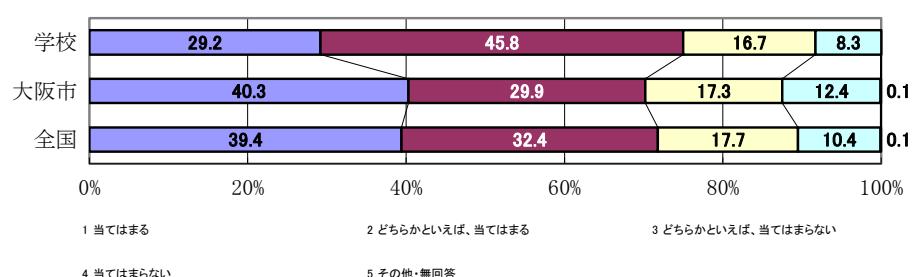


児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

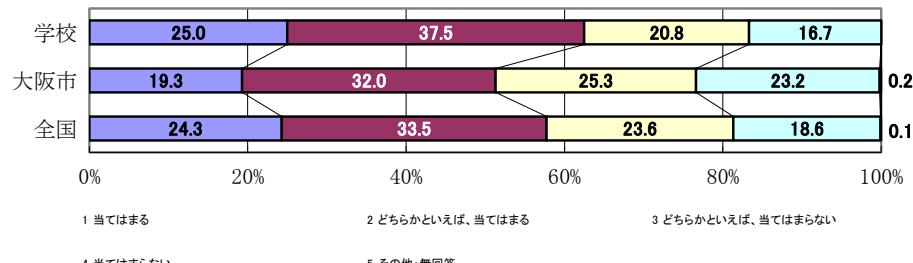
質問番号
質問事項
24

読書は好きですか



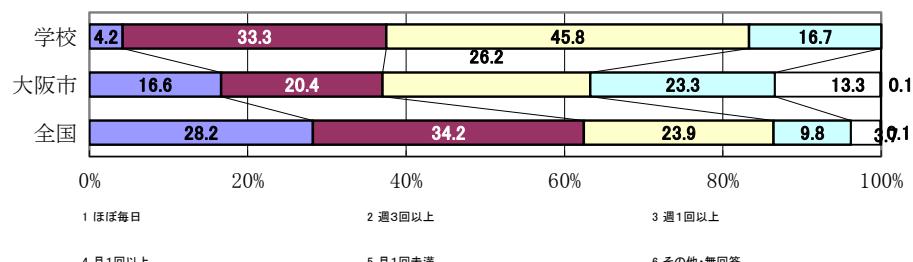
質問番号
質問事項
25

今住んでいる地域の行事に参加している



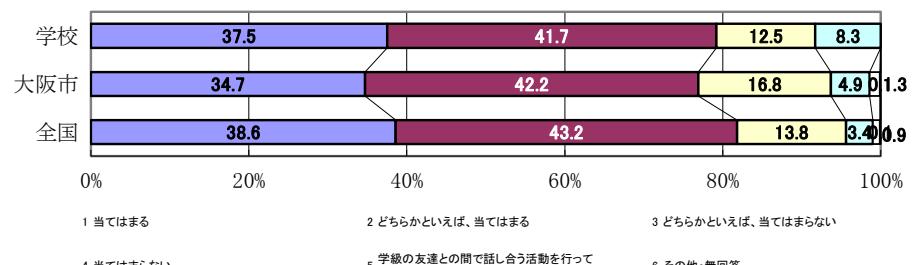
質問番号
質問事項
29

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



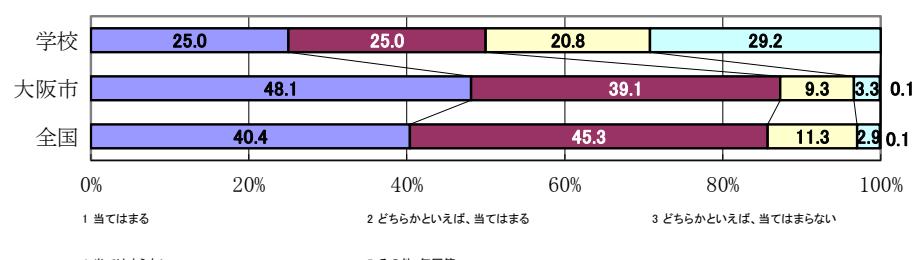
質問番号
質問事項
36

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか



質問番号
質問事項
45

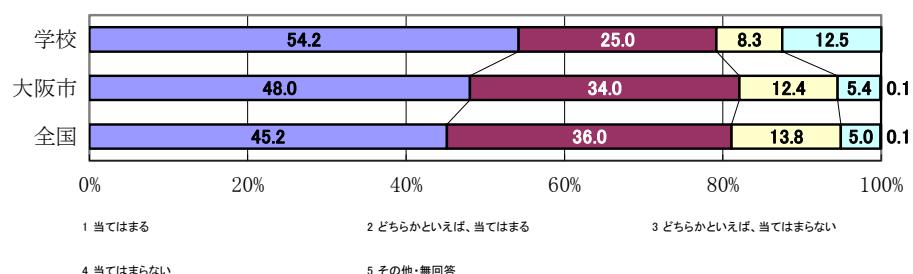
国語の授業の内容はよく分かる



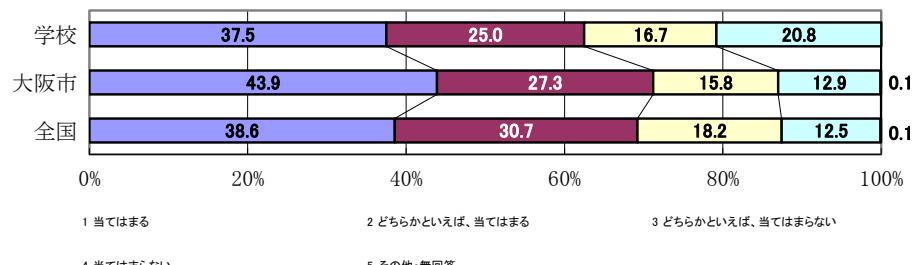
児童質問紙より

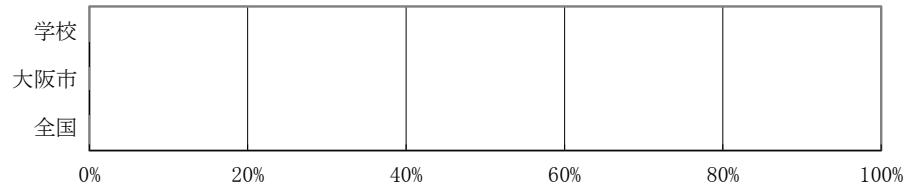
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

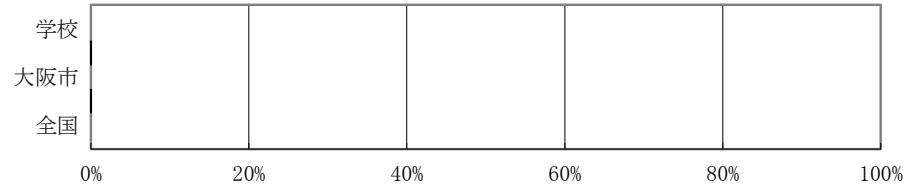
質問番号
質問事項
53
算数の授業の内容はよく分かる

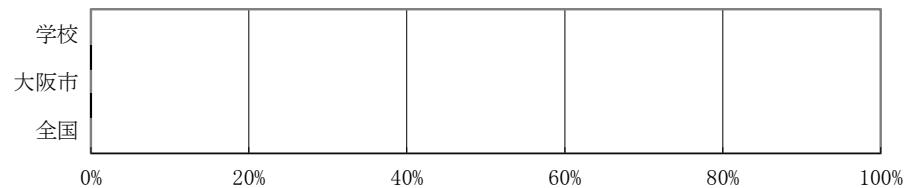


55
英語の勉強は好きだ









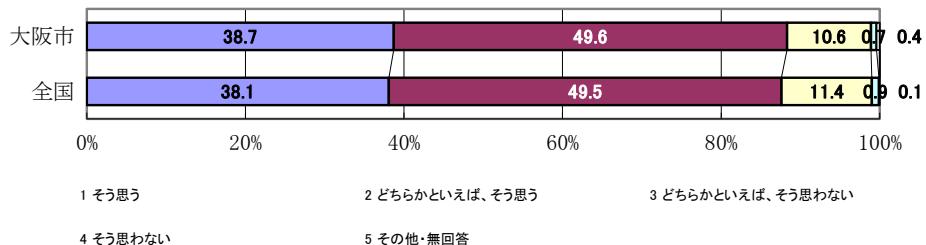
学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項
9

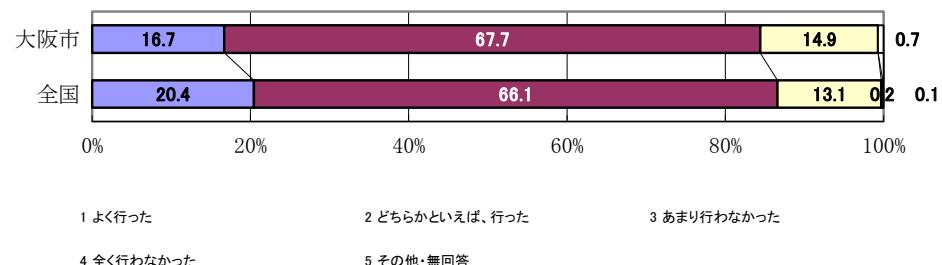
調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



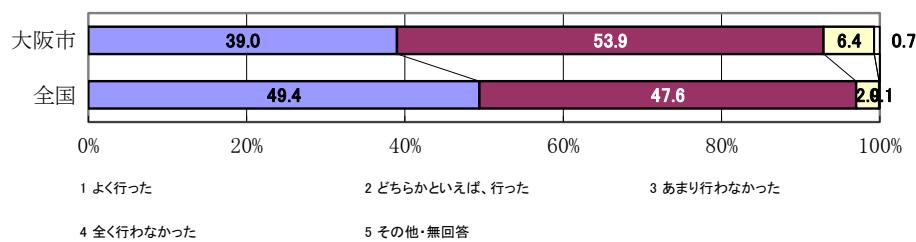
11
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



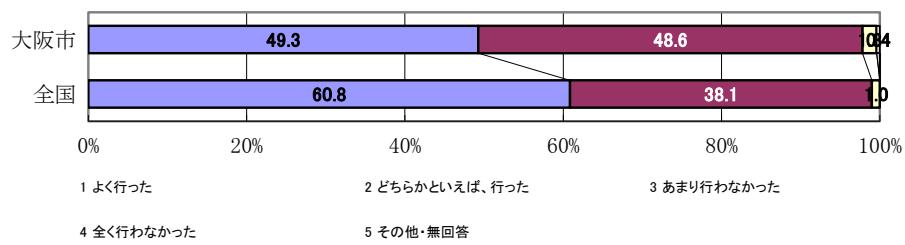
12
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



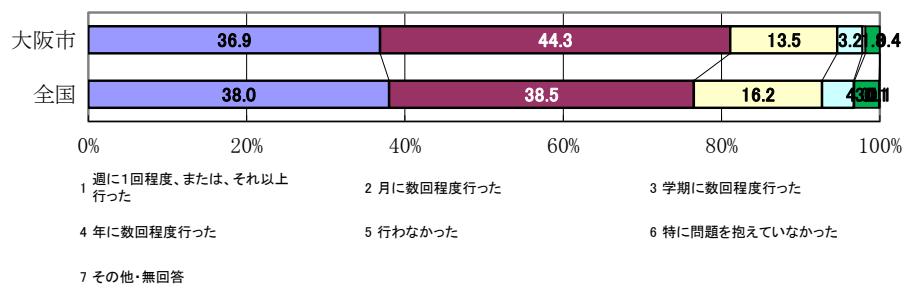
13
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



14
校長として、よりよい学校運営を行うために、前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

学校 「月に数回程度行った」を選択



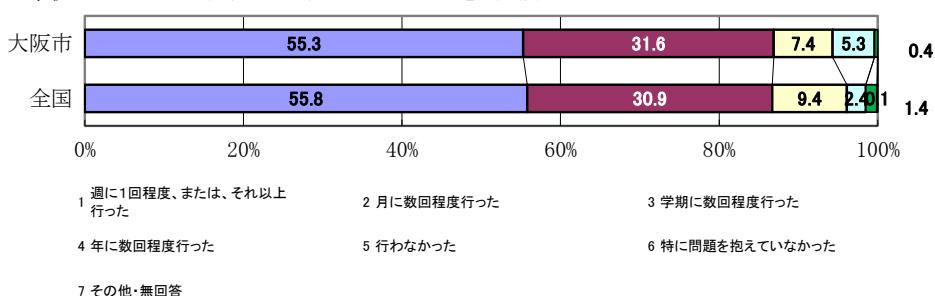
学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項
15

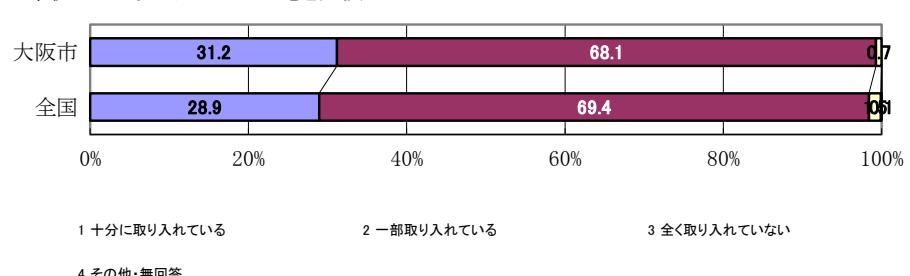
校長として、よりよい学校運営を行うために、前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、どもに問題解決に当たることを行いましたか

学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



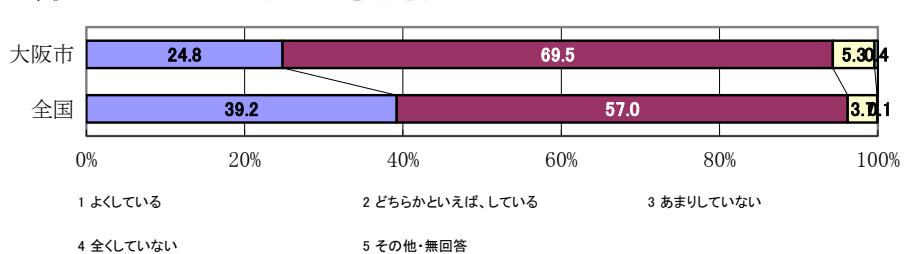
16
ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

学校 「一部取り入れている」を選択



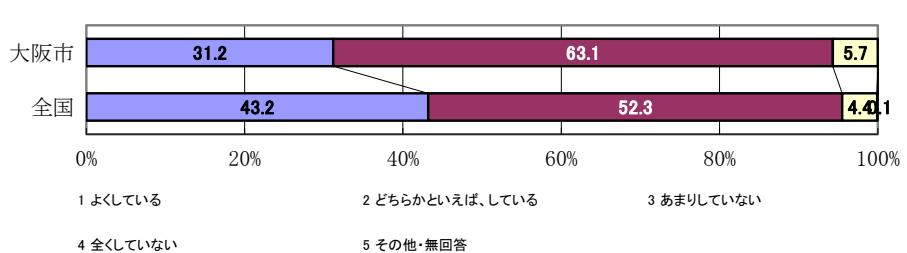
19
児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

学校 「どちらかといえば、している」を選択



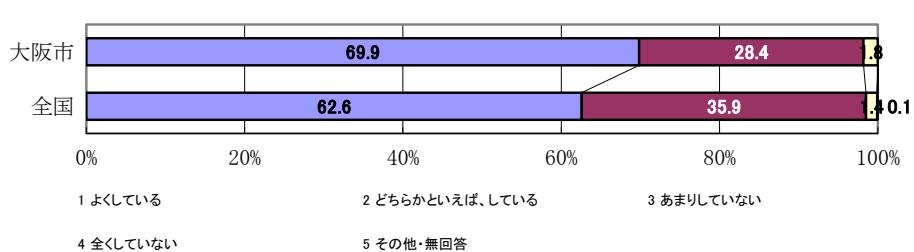
20
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

学校 「どちらかといえば、している」を選択



22
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

学校 「どちらかといえば、している」を選択



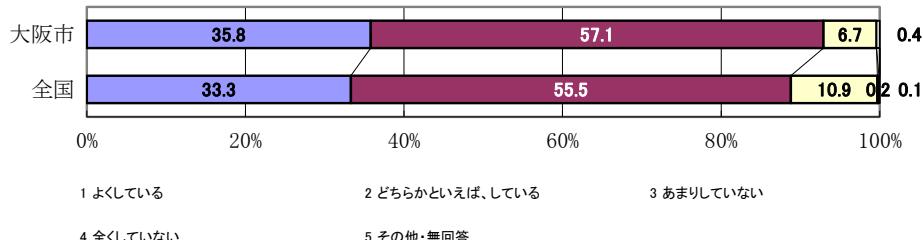
学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項
23

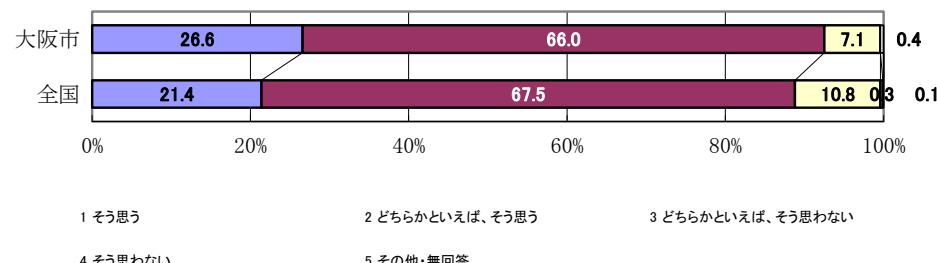
児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている

学校 「どちらかといえば、している」を選択



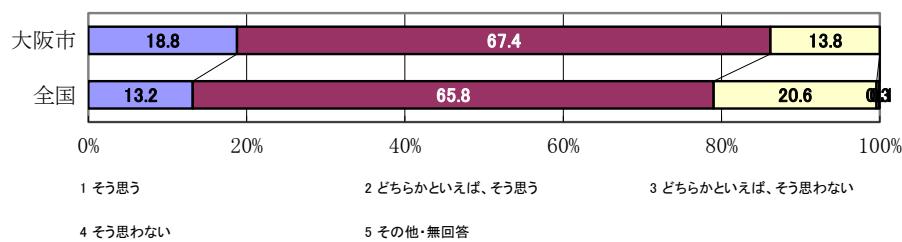
26
調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



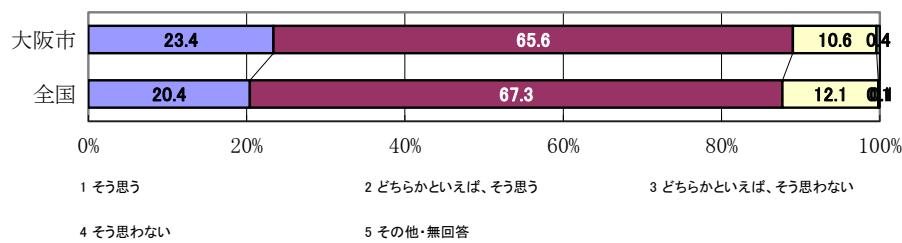
27
調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



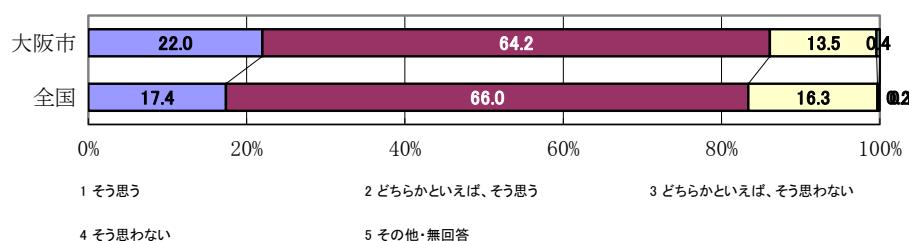
28
調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



29
調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

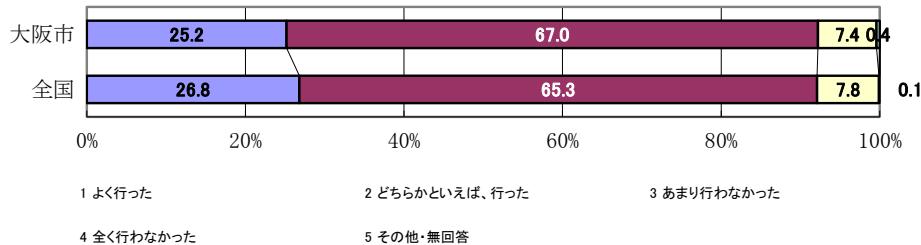
質問番号

質問事項

46

調査対象である第6学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をどの程度行いましたか

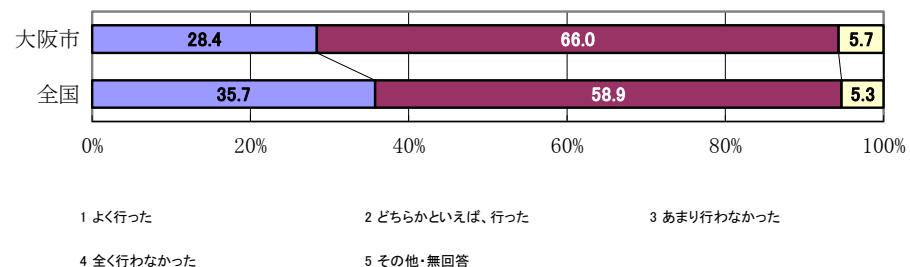
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



47

調査対象である第6学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動をどの程度行いましたか

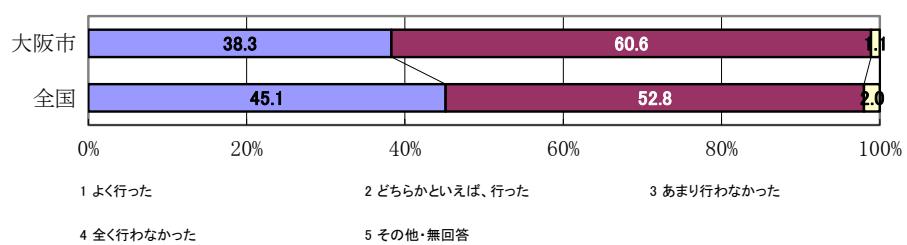
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



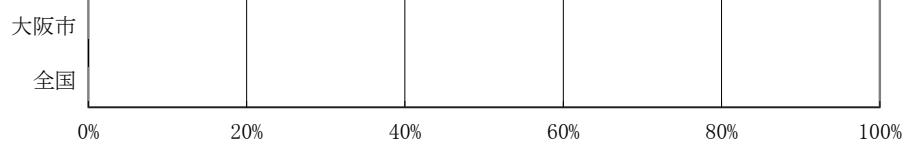
48

調査対象である第6学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していました

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



学校 「」を選択



学校 「」を選択

